WASON
HQ
1104
J74+

# THE WOMAN'S MAGAZINE.

# 女學雜誌

明治二十年十月八日刊行

每土曜日發兌
一冊正價五錢
府內無郵送稅

第七十九號

東京 女學雜誌社

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

# The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 79. October 8th, 1887.

第七十九號

EDITORIAL:—Woman and Literary Work: No. I; On Girl's School (Concluded).

LEADING ARTICLES:—Hygien in a Day, by Miss G. Ogino; History of the Woman's Right, by Prof. N. Hozumi: No. III.

MISCELLANIES:—Strange Apparitions in an Autum Night: No. II; My Tour during the Vacation, by H. Suzuki; Care and Taste in a Home.

CRITICAL NOTICES:—"Ukigumo," a New Novel, by J. Tsubouchi.

BIOGRAPHIES:—The Eminent Women: No. III.

NOVEL:—"The Fragrant Rose": No. XII.

CORRESPONDENCES.

GENERAL NEWS.

ADVERTISEMENTS.

●社説　女子と文筆の業第一（文筆の業女子に好都合の事）○女學校の論に附す

●論説　一日間の衛生（荻野ぎん）○婦女權利の沿革第三（穗積陳重）

●叢話　秋夜の怪談第二（櫻田ゆかり）鹽原入浴の記（鈴木弘恭）家内の飾り付

●批評　浮雲の褒貶第三（石橋忍月）

●佳傳　女丈夫傳（第三）

●小説　薔薇の香第十二回（月の舍しのぶ）

●新報　八件

●廣告

## ●珊瑚の珠　（第三十八回）

○シドチースミス曰く君かつて余が婚姻の解釋を爲したるを聞くか云く婚姻は猶ほ鋏の如し其の兩刄を分たんと決して爲しがたきものあり蓋し時としては反對の方向に相ひ離るゝとあらん然れども此際もし其間に立入るものあらバ直ちに切り斷れんのみ

○ルーテル曰く妻なくして世に立んは食ハず飲まずして日を送らんとすると同樣の事なり吾等は女に依てはらまれ女に由て養れれ女に由て生まれたり吾等の一身殆んど婦人の物と云ふも不可なし

○ジヨンソン曰く男女相婚して夫婦とある此の夫婦必らずしも常に自然に合へるものにあらず見るべし之をして永遠に斯の如く夫婦たらしめんとするのハゲマシ及び其の分離を禁ずる所の法律書に存するに關らず尙ほ遂に夫婦相ひ別るゝものあるにあらずや

○今の俗に針の孔をミヽズと云ふ童蒙抄に針のミヽとあり耳の意にや（玉勝間）

○靜が義經を慕ふ歌に（駿台雜話烈女種なし）

しづやしづ賤のおだまきくりかへし昔を今にあすよしも哉

女學雜誌第七十九號

明治廿年十月八日

## ●社説

### ○女子と文筆の業

（第一）文筆の業女流に好都合の事

四本の柱を以て女子の住居すべき境界を限り、家内、内房、奥、御息所等の名稱を附して婦人を一室に閉ぢ籠め云く女は内を修むるものなり陰物の外に出て丶陽氣と混合するは國家大亂の楷なりと則ち歩まざるを以て優なりとし動かざるを以て美なりとし運動足らず消化健やかならずして顏色の蒼白なるを以て窈窕たる淑女となす昔日の日本に云ふ所の女子當然の職掌なるものは蓋し如此なりき。然るに吾人今ま眼を轉じて歐米文明國當今の女風を觀るに其景況眞に之と天地の差あるを覺ゆ、則ち黒烟顏を墨にし綿粉躰を雪にするが如き製造場に於て奔走轉顚終日の苦を忘れて働らきを爲すものに幾十萬の女子あるを見るべし而も其賃銀の男子に劣るとを不當とし毎々同盟罷工を企だて丶世人を驚倒せしむるとあり、或は大藏省に積んだる山の如き貨幣を數へ或は國家治亂得喪の跡を記錄し或は天下の興敗を一叩の指の先一封の文の中に掌どりて玆に政府の會計吏書記及び電信郵便局員等となるあり、或は議員投票の權は男女均しく之を得べきものなりと主張して四方に遊説奔走するもの、或は判事船將學務委員知事書記官の類は悉く亦た女子の擔任して然るべき官職なりと主張するもの、或は女醫美術家と爲つて年幾萬の入金を得るもの、或は小學敎師の役を殆んど全く女流の仲間に擔當せんとするもの、凡そ如此き外に活潑々の働らきを爲すもの指を屈めて數ふべからざる也。

吾人此の二つの有樣を比較して密かに熟考すれば其相違すると譬ふるに猶ほ穴より出でよと云ふと穴に入れよと云との相違あるが如きを覺ゆ彼此の懸隔如此く甚しきは多くあらざるなり、然るに世の女たらんものは果して其の穴に入るべきか若くは蹶然として立つて其穴より躍り出づべきか内に隱居して依然たる家內となり立上つて奥御息所とも相成るべきか若くは外に突出して或は女丈夫となり或は女の仕事師と爲り以て家外、外房、外、御働所等の名稱を新調すべきか、當今開化の二流中に立つたるものは其足を何れにか向くべきやと甚だ掛念して之を疑ふと勿論ならん。然るに吾人を以て之を見れば今に至て尙ほ女は只だ家の内に束縛さる丶ものありと

云ふは恰かも荒比亞馬を永久馬小屋の内に繋ぎ置くが如しと思へる、然れども亦た女子は男子と均しく外に働いて差支へなしと云ふは是れ夫婦を以て一家に下宿する二人の職工となし男女を以て現世に競爭する一對の敵手となすが如と考ふ、共に通論にあらざるべし。蓋し吾人は家族を以て婦人の管轄領と爲せども家屋を以て女子の境界を限ぎるものにあらず亦た女が外に出でゝ働らき殆んど男子同樣の事を行ふて所謂る女丈夫と爲るとも殊更に之に不同意を表せず寧しろ千百人中必らず如此き一人の偉女子あらんことを希望するものと雖も此の非常格外の事を以て惣躰の婦女子に要すべからざることを覺悟し則ち彼の女子は男子と均しく外に働いて差支へなしと云へる過激説を採らざるものなり。

思ふに世間すでに男女の數に不同あらん限りは必らずや世に獨夫未通女たるものなきを得ず此等單獨の男女は或は女にして女丈夫となり或は男子にして婦女子の如く相なることもあらん是れ固より然るべきの數なりと云ふべし、然れども其惣躰に就て之を大きく觀察すれば男女は必らず相婚して一對の夫婦となり茲に家を作り族を生じて共に和樂往生すべきものならん此時家に在つて家事を理むるものは恐らく妻女たるべく外に出でゝ働らくものは大方は良人たるべし故に十中九分の婦女子は後ち大抵人の妻と爲り母と爲つて一軒の家族を修むべきものなりと云はゞ凡そ何如なる藝術か尤もよく其身分に好都合なるべきか其事此に至つて甚だ明白となるべし。

卽ち妻と爲つて夫を助け母と爲つて兒を敎育するの傍ら誰れか能く政府の會計吏書記官と爲らん又誰れか能く判事船將知事學務委員と爲らん斯る身分にして女醫電信員郵便局員と爲る亦固より容易の業にあらざるべし、然るに此際に至るも尙ほ其の尤も行ひ易きものは蓋し文筆の業なり。一枚の筆一面の硯之を臺所若くは寢所の片隅に置いて暇まある折々に思ふ所を紙上に訴ふるの便必ずしも之れなきにあらじ若し之をしも不都合なりと云はゞ其人や卽ち他に何事をも爲し得ざるの人なり苟くも一家を調理するの傍ら何事かの餘業を行はんとすると云はゞ蓋し彼の文筆の業の如く婦女子に好都合なるものは他に亦たこれあらざるべし。

但し文筆の業能く婦女子に適應することは必らずしも其の妻と爲り母と爲つて他に仕事を爲すの途甚だ少きの時に至りて始めて現はるゝものにあらず元來女子は其躰力軟弱にして力役に適せず其性變化なきことを好んで奔走敢爲の懸引を喜ばざ

るものと雖ども其感情の熾んなる其の美術の思想に富める如きは悉く是れ女子をして文章詩歌の道に上達せしむるの元因たり。然れば古來女子の行爲に依つて文明の進歩に大紀元を畫したる程の事甚だ少きが中に其の僅かに存する所のものは大抵皆な文章詩歌の上に在り亦た女子の行爲に依つて其の感化を後世の久しきに流したる所のもの甚はだ多からざるが中に其僅かに存する所のものは亦た大抵文章詩歌の上に在るが如し、紫式部の源氏物語に於ける小野お通が淨瑠璃物語に於ける、或は淸少納言が枕の草紙、赤染右衞門が榮花物語、伊勢が伊勢物語、阿佛が十六夜日記、大貳三位が狹衣の卷もしくは道綱の母某が蜻蛉日記に於ける、或は小野小町和泉式部小式部の輩がらが詠歌に於ける、皆な之れ或は日本文學の上に一大紀元を作り或は其の感化を十九世紀の本邦文學世界に及ぼして有髯男子の尊崇歸依する所となる。次に西洋諸國に於て如此き實證を求るに其例莫大なり、彼のマダムダルブレーを最初としてラドクリッフヱ夫人ウチルストンクロフト夫人ジヱーンアウステン孃ヲピー夫人モルガン姫等を經てチヤーロッテブロンテ、ミッセスヲリフバント、ゼヲジヱリチット、マダムデスタル、マダムヂウデバンド(ゼヲヂス、サンド)に至る諸婦人が小說に於ける、マックリアン夫人を最初としてヘンマン夫人ブローニン夫人等に至る諸婦人が詩歌に於ける、ハルリヱットマルチノウ、ミッセスソマービル、ミッセスグロート諸婦人が理學學術に於ける如きは其尤も有名なるものにして何れも皆な其才名を万古に流し且つ西洋文學史上に非常の變動を與へたるものあり。如此き皆以て婦女子が文筆の業に能く適應するとを證するものと云ふべし。

○

## 女學校の論に附す

吾人は當今女學の甚はだ隆盛なるを祝して近來續々新設する女學校の數甚はだ多きを賀し同時に女學校新設者に向つて幾分の老婆心を呈し置たり、尙は現に女學校の數斯の如く增加するの日に於ては女學生が能く校の善惡を辨別して成るべく其の敎育法を得たるの場所に入學すべきとを勸め先づ女學校の惣躰を種別し次に其善惡を辨別すべき一條の心得方を指し示したり、然るに一方には女學校の數いよ／＼增加するの日に於て一方には成るべく宜しきを得たる所の學校に入つて學問せんと欲せば勢ひ輕々しく學校を變へて每日先より先へ移り行くの趣きなきを得ず是れ現に當今女學生の間だに在觸

れたる通弊にして其尤とも痛歎すべきものあるが如し故に吾人は最後に此流の人々に對して少さか忠告を呈するところありき」凡そ右の三條は當今女學校に關して先づ第一に心得置くべき必要の問題なりと信じたるが故に遂に以上三篇の女學校論を以て其の大畧を論述したり之より外か更らに注意すべき所の箇條尠しと爲さずと雖ども其は亦た他日に於て分説するの機會あるべしと信ず。故に今ま之を以て此論を終らんとするに當り此際東京横濱間に在る各女學校に於て現に夫々何如ある敎育法を施さるゝやの實況を推知せしめんが爲めに先づ其の各女學校に於て專ぱら敎育の方向とする所の者を示し置かんと欲す、蓋し人の行狀を察せんとせば先づ其の目的とする所ろの希望を窺がひ知るを要するが如く一の學校の敎育法果して何如んと考がふるときは先づ其學校は抑も何如なる希望を目的として其敎育を施こすやを承知すると甚はだ緊要なるべし故に吾人は京濱間各女學校の幹事に就て一々其校の敎育主旨とする所を質し則ち左の一表を製したり讀者もし之に依て各校の敎育法を辨知し以て其の入學の希望に適するや否やを推斷するの一助と爲さば編者の幸ひならん。

## 京濱各女學校敎育法主旨

### 例言

此表に掲ぐるものは女學校論第二篇に種別したるものゝ中所云る普通敎育の女學校として世に承知さるゝ所の者に限れり故に職業學校裁縫學校の如く凡そ一見して既に其校敎育法の主旨を知り得べきものゝ類並びに華族女學校の如く專ぱら上流の貴孃を敎へんとし師範學校女子部の如く專ぱら女敎員を養成せんとし高等女學校の如く專ら良き妻を敎へ成さんとさるゝ等凡そ世人が既に明かに其校の目的を承知する所のものは今別に之を掲示せず要するに吾人は世人が普通敎育の女學校ありと認め居る學校に就て其の實際の敎育主旨を明らかにせんと欲するの微志を主となしたる事

此表に掲ぐる各校の敎育法主旨書は皆な其校幹事の自から草したる所にして編者毫も之を改めず故に之を以て其校敎育法の目的なりと確認するを得べき事

此表に掲示する順序は答書が編者の許に達したる順序に隨がひたるものたる事

此表中に漏るゝものは一は答書の未だ達せざるもの一は編者が問を寄するとき脱漏したるものなり他日再び増補

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

の表を製し倘ほ追々各地方の女學校に就て同様の取調べを爲すべきが故に之に漏るゝ學校の幹事諸君にして若し之を追報するの恵を賜はらば幸甚なる事

### ○高等佛和女學校　築地明石町五番地

創立　明治二十年二月十五日

維持　私立外國人即ち佛國女教師會社の者と云ふべき也

教育　本校の目的は佛國巴里の女子中學校に相應して日本内外の子女中等以上のものを教育する目的なり校則教則共に巴里女子中等學校の組織に違はざる也

### ○跡見女學校　神田仲猿樂町十五番地

創立　明治八年十一月

維持　私立

教育　本校は本邦上流淑女の令德を養成し以て其品位を全ふせしめ和漢洋の文學を推究し以て其智識を錬磨せしめ且つ書數裁縫音樂圖畫凡て日常必須の技術を教授するものとす

### ○櫻井女學校　麹町中六番町五十二番地

創立　明治九年十月

維持　基督信徒共力に依る

教育　(學科の種類)小學科、尋常高等幷習。英學科、本科預科共に六年。英和高等特別科三年。附屬幼稚園。(主旨)、本校は女子小學即ち尋常高等二學期滿八ヶ年に一ヶ年を加へたる年限中に於て正則の英學を兼修し同時期中に英和二ヶ國の普通學を卒業せしめ夫より進んで高等特別科學期三ヶ年間に於て改良法の衣服飲食教育法經濟法等社會必要の事を講習錬磨せしめ所謂る文明の働を爲すに適當なる良婦人を養成せんことを要す。斯の如く普通學を修むるの時限中に於て英學をも學び得べき組織なれば時間の短縮なるは修業上頗ぶる困難ならざるに非ずと雖も文字に竪横の別あり文章に種々の様あるも其理義に於て異なる所なし左れば各自智識の度にしたがひ英和互に相たすくる所あり且つ此の如き科程を履む所の者は幼少より完全なる智、德、體の三育を受けしめ天賦の才美を養なひ成さゞれば能はざるべし之れ本校は煩を忍んで預め附屬の幼稚園を設け以て其準備たらしむる所以也

### ○頌榮女學校　芝白金猿町

創立　明治十八年十月

維持　私立

教育　本校は專ら普通學を教授し又キリスト教趣意を以て婦德を涵養し智德兼備の婦女子を養成するを目的とす又英語は米國女教師三名にて教授し理科博物等は翻譯によつて教ゆ

### ○女子神學校　駿河臺甲賀町

創立　明治十六年五月十五日

維持　有志私立

教育　本校は正教の定理道德に基きて普通の教育を女子に授け以て教會と社會に稗益する貞節の婦を起さんと欲す

### ○靜女塾　神田錦町三丁目六番地

創立　明治十八年二月十三日

維持　私立

教育　本校は十八歳以下の子女を教育し淑德の娘媛優美なる賢妻を養成し專ら德育の點に注意す本校の生徒たるべき者は中等以上の生計を成すものに限りかつ通學するを許さず塾舍は一家の如く生徒の腦中は學舍にありてなほ家にあるの思あらしむ

### ○東京女學　芝櫻田兼房町

創立　明治二十年六月廿八日

維持　私立

教育　本校の主意は最初開校の節大方に公告せし如く專ら婦人教育の大任に當り一向婦人の智德を增進せしめんとするの外なきものなれば今更其教育の主意なるものを喋々するにも及ばず左に本校創立主意書なるものを登錄し以て其主意の在る所を示すべし(編者云く右主意書は長文にして且つ世人が既に公に承知する所ならんと信じ略す)

### ○恒德女學校　芝南佐久間町一丁目三番地

創立　明治十七年十二月

維持　私立

教育　本校は脩身和漢文算術習字の科目を教授し而して脩身科は初級には古の格言善行を口授し上級には書籍に就て授く和漢文算術習字の如きも簡より難に移り務めて女子後來の目途を誤まらざるを要す

### ○ブリテン女學校　横濱居留地九十七番

*I enclose you a Report of my school, and I think you will see from that the name—and what will be the studies for this year, next year. I hope to take higher branches. And my school is to teach English throughly to all who may come whether Foreign or Japanese young ladies.*

蓋し本邦及外國の年少女子に英學を充分に教授し聖書、讀方、書方、數字、綴字、地理、英史、文典、萬國史、口演、書取、唱歌、圖畫、佛語等を教ゆるの目的なるが如し而して維持は私立、創立年限明ならず

### ○立教女學校　築地居留地三十八番

創立　明治十一年九月
維持　米國エピスコパル教會附
教育　本校は女子の教育基督教の道德を基本とし女子相當の智識を得せしむるを目的とす

### ○水交女塾　芝櫻田本郷町十四番地

創立　明治五壬申年正月二十八日
維持　私立獨立塾にして年々月謝の餘贏を積み置き金祿公債を償明治十九年殆ど金五百圓該利子を以て維持の法に充つ
教育　第一皇國の諸事を心得させ交へるに柔和禮讓を以てし品行を正くし親孝夫貞たるの道を懇切に諭示し勉强を專務にするも倘し教訓に背くも反覆温言を以て敎へ猶順ざるあらバ遂に退塾せしむ

### ○松香女學館　神田仲猿樂町十七番地

創立　明治十七年
維持　私立
教育　彝倫道德を基礎とし當今女學生の弊風を矯正するを以て主眼とす

### ○東洋英和女學校　麻布鳥居坂

創立　明治十七年十月二十日
維持　カナタメソヂスト教會女子而已の會員に由て成立するもの
教育　本校は第一の目的とする處ろ基督教を傳導するに在り。第二は基督教國の教育を施し各自獨立の氣象を得せしむるに在り。第三に身躰の强壯を謀らんが爲め大に勉强時間を制限して日々躰操運動せしむ。

### ○フェリス英和女學校　横濱山手百七十八番

創立　明治八年六月
維持　米國ダッチリホームド教會外國傳道會社に屬す
教育　第一、可及的時勢の要求に應じて完全なる實地の教育を施し心身の諸能力を平均に發達せしむる事。第二、學科課程を定め普通學及び英和兩學を充分敎習せしめ以て學生をして會話筆記に精確流通ならしむる事。學生を奬勵して後進を教ゆるの準備をなさしめ以て幾分か全國諸方より女敎師の需要に應ずるものを養成する事。第四、內、一家の庭訓經濟より外、交際上の義務に至るまで凡そ婦女に必要なる實地の教育をなす事。第五、絕えず學生の衞生風儀道德及び基督教徒たるの品性を發達せしむることに注意し以て有用にして學藝ある婦女子を養成する事

### ○長榮女塾　小石川はつとり坂上

創立　明治十六年七月一日
維持　私立單獨維持
教育　本校は女子にして小學教員たらんと欲するものに適當の學科を教授するを旨とし併せて女子が固有の権理と德義とを保全するは眞正の教育より成り立つを悞り基督新教を遵信し百事之れに法りて塾則校規を定め廣く全國に敷衍せんとを望めり
　但し高等師範學校入學志願者授驗には最も適應の教科となす則ち尋常師範學科全科を教授するが故なり

### ○共立女學校　横濱山手二百十二番

創立　明治四年十一月
維持　私立(米國婦女一致會社の協力に係る)
教育　本校は英學を志すものに高等普通の學科を教授し兼て和漢學を學ばしむ啻だ智育のみならず大に德育に注意し貞操順德智能兼備の賢女を輩出し他日邦家裨補の實効あらんとを目的主旨とす而て其修身道德の基礎とする所は固より基督教の眞理に由るなり

### ○駿台英和女學校　駿臺袋町十番地

創立　明治八年十二月
維持　私立
教育　本校設立の主旨はクリスチャンの教育を與ふる爲めなり

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○明治女學校　神田飯田町三丁目卅二番地

創立　明治十八年八月

維持　私立(廣く校資を募り校運の進歩を永遠に期す)

教育　普通科を五年とし專修科を三年とす普通科は汎ねく女德を發育するを主旨とし文理藝術の中凡そ女性の教育に必要なるものは悉く之を授け卒業生を賢妻賢母として當今の時弊を救ふに在り而して普通科研修の間に志を立て特に高等の教育を受んことを望む者の爲に別に專修科を設け大に女學女權擴張の基を開く

吾人が本誌編輯の當日(十月二日)迄に落手したる報告に依て表を製すると右の如し京濱内に存する普通教育主義の女學校にして尚ほ茲に漏るゝもの固より有之其校の幹事諸君にして若し追報の榮を賜はり此表大に增補する所あつて當今女學生の爲に多少の便を供ふるに至らば吾人の大幸なり。

## ● 論説

### ○一日間の衞生　荻野吟

左は明治女學校毎土曜日の講談會に於て校醫荻野吟子が衞生演說の第二回として述べられたるものを筆記したるなり元と其の大意を書止めたるを一應同子の閲覧を乞ひたる迄でなれば例の速記にて寫し取りたると混同さるゝことなからんを望む。

私は前の土曜日に衞生は國家富强の基礎であると云ふことをお話し致しました、今日から家屋の事や空氣の事を話し升うかと存じましたが一と先づあなた方が毎日々々成されまする尋常の事に付きて少さか注意すべき箇條を一寸つと申上ませう其後ち追々と生理衞生等の大切なることにも移るであり升う。先づあなた方朝お起きなさいましたらば固より言ふ迄もなく布團をおたゝみなさるでせうが此の取片付はお起なすつてから少し立つて後の方が宜しう御座います、御承知の如く夜中寢て居りまするうちに躰から惡るい蒸發氣を出しますから隨がつて其氣は布團に着いて居て布團は餘程濕めつて居ります夫れゆへ毎日之を外へ出して乾しまするると一番宜しひですがそうも成りますまいから何卒起てから少しの間だ置て濕り氣が散じました後ちにおたゝみなさるように致したいものと考へます。扨てお起きなすつてからは齒を磨がき顏をお洗らひなさるでせうが此の齒を磨がくことについて餘程御注意なさらんければありません、一躰齒の成立ちを申しますと之に三つの層があつて丁度此處の壁のようなものです、一番上に在る白壁のようなる此の白いところは即はち琺瑯質と申しまして其下に象牙質と云ふがあり又其の下に白堊質と云ふがあります、故に

毎朝齒をお磨きなさるには即ち楊子を以つて此の上への琺瑯質の所を磨りなさるとですが、其のコスリ方が餘り强いか又は齒磨粉が惡るいならバ段々と其の質が剝げ去つて下の象牙質が現はれ甚しきは象牙質も剝げて其下の白堊質が見へるようになり大層に見惡くいものです、一躰齒と申しますものは人の壽命よりも早く脫けて仕舞うものと誰れも定めて居りますが決してそうではありません、若し能く用心して大切に之を磨ひて居りまするならば矢張り人の壽命丈けはツヾヒテ居るものです、御承知のように毛は一度切つても復た伸びて參ります躰のかはも少々むけました所が自然に新らしひ皮が出來て參つて元の樣に成りますが齒バかりは一度磨滅しましたならば決してまた元の如くならんものですから餘程よく用心して大切に爲なければなりません。夫故へ日本人には齒脫が多く西洋人には其割に少いと申しますが必竟は其養生が行き届くからでありませう。ですから齒磨を第一にお撰みなさい齒醫者の高山と云ふ人の家で製造なさるのが先づ第一に宜う御座いませう又楊子は成丈け毛の長いのをお用ひなさい短かいのは宜う御座いません、而してウガヒを成るにはコツプ一杯程の水に重炭酸曹達を解て置て之で口をおすゝぎなさると宜しひです、齒も丈夫になり口中も淸しくなりまして大層衛生上に効能があります。元來齒が惡るう御座いますと其の害の及ぶ所は啻に齒の上にのみあるものではありません、之よりして胃が痛みますように成りませう、其譯は齒の處ろで十分にかみ碎いて第一消化を致しませんから胃の處へまだ唾に包まれないコナレもしないものが直きに參りますから何うしても胃を痛めまする譯です次に言語が能く分らなくなります。其次には容貌が大層かわつて見へます、先達ても或る人が私の所へ參りまして私を知つて居ると申されますのみか一處に學校に居つたと申されますが何うも考へ付ません、漸と其名をきゝまして初めて思ひ出しましたが其の容貌が見違へるように元と變つて居りましたよく／＼之を見まするに即はち齒が大層脫けて居りましたからでしたが齒の惡るいのは此樣なる處にまで關係を及ぼすものであります。

先づ顏もお洗らいなすつたから其次には朝の御膳をお食りなさるとですが之は前回にも少〻申しましたとですがあなた方は未だお少さいとですから其の料理法に注意なさると云ふ御身分ではありませんが之をお食がりなさいますとに付ては餘程注意なされたいとです、即ち前回にも申しました通り口

の內にて能く嚙み碎いて第一消化を濟ました上で胃に送つて第二の消化を成さるように致したいとであります、夫故之を餘り早うお食りなすつては大層不養生となります。私が學校に居りましたときは皆々食事を急ひで食べました夫れは取締の人が二人附いて居りまして食事の監督を致し初は先づ二十分とか十五分とか食事の時間を定めて置たとでしたが何分その二人の方が大屈そうにして番をなさるとですから自然我も人も食事を急ぐようになりまして仕舞ひには五分もかゝらなひようでしたが其の爲めに學校中に胃病をやむものが多く出來ましたとです、夫ゆへあなた方も成るべくよく嚙み碎いた上で胃の方へ送るように成されたいものです。又食物の品に付ては前申す如くあなた方の御自由にも成らんとでせうが成るべく牛肉や牛乳のようなものをお食りなさるように致したいでです、其外衛生の食物の事については後回にくはしく申すとでありませう。

扨て斯く食事が濟みましたらば學校へお出でになるでせうが御膳が濟んで直きに身を動かしなさいまするは宜しくありません、胃を動かしましては胃液と云ふものが多く出過ぎまして即はち消化の爲めに宜しくありません、御膳をたべまして直樣身をアセリ動かしまするど咽から酸ぱき水が出ませう之れ即はち胃液が出まするので斯く澤山に出過ごさせて大切の消化に使うときに足りませんから結極は不消化の元となります。故に食事後少こし立てから學校へお出になり學校へ參られましてからは即はち學校で定めました通りの規則をお守りなさるとでありませう。

斯て一日の課業もすみ風呂へお入りなさるでせうが、風呂の溫度及び時間の事については色々と六かしひ議論もありまするが之は左程一定しては申されません。平生アツヒ湯に入りつけてるお方は餘程アツクても別段大層の害もないと云ふようなものでありますが、然し餘熱つ過るのは宜しくはありません。此時シヤボンをお用ひになるでせうが、石鹼には色々の種類があつて善惡の違ひが大層ですが一々之を溶ひて可否を試みるわけにも參りません、故に只今一番容易ひエラビ方を申しますれば即はち成るべく透きとうつたものをお用ちひなさるが宜しひでせう、透明なるシヤボンには餘まり惡るひ品はありません、夫から石鹼をツケて躰をお磨なさるには海綿が宜しう御座いませうがエリ又はキメの細かい皮膚をお洗

ひなさいまするときは矢張り手でお磨りなさる方が宜しひと思ひます、凡そ皮膚には皮膚が一番適して居りまして之れほど能くアカを落とすものはありませんが、どうもそう思はれませんようでせう然し一番宜しひのです特に手は尤も感じの強いものですから洗つて落ちたか落ちないかを見るに大層便利であります、かた〱成るべく手を以てお洗ひなさるようになさいまし。次に入湯の時間の事之れも人々の習慣に因ることですから餘り何んとも申しません。

夫から又た髪を洗ふ事に付て少々お話し致しませうが、髪は月に一度ほどお洗ひの方もあり亦た二ケ月に一度の方もあり中には一年にやう〱一度ほどお洗らひなさる方もありますが、之は矢張り一週に一度ほどづゝ洗らうが宜しう御座います、凡そ躰から蒸發氣が出れば頭まからも出ます、躰にアカがたまりますれば頭まにも同様にアカがたまつて居ることが分ります、然るに度々入湯しまして躰を清くすることには注意しましても頭に積つて居るアカや悪しき氣を洗ひ去ることに心を付けないのハ分らないことと存じます、どうぞあなた方大抵一週一度は是非お洗ひなさるようになさい、私等も若し之を延ばしまして十日目に一度としましても早や餘程心持が悪るいように思はれます、あの頭痛がしましたり頭がモーッとして參りますのは必らずしも腦痛ではありません必竟頭を洗らひ頭に手入することが足りないからであります。

夫から夜になりましてラムプをお用ひなさることですがホヤは磨つてぼやしましたのが宜しいです、又油は成るべく精良なるを用ひて成るべく油煙の立たないのをお使ひなさい。

最後にはお休みの時間ですが之は是非八時間ほどはお寝なさらんければ成りません、尤とも平生強よい人とそうでないとに由りて違がひはありますれども概して申せば八時間と云ふが宜しひです、中には私は四時間で足りる五時間で十分だなど仰しやる方もありますが、之は夫丈けで十分なのではなりませんたゞ〱其の疲れがまだ現はれて來ないと云ふ斗りですから二三年の内には切度その結果が見へて大に躰を害することにありますから矢張同様の不爲めであります。

以上は先づ一日間の衞生の事を荒増申しまして極々普通尋常の事です、此次には追々尚ほ大切なる事をもお話し致すでありませう。

*"Women is like the reed, which bends to every breeze, but breaks not in the tempest."*

*Whately.*

○婦女權利の沿革(其三)(特別寄書)　穗積陳重　講述

第二身躰に關する權利。生命に亞いで大切なるものハ身躰でありますが、前にも申せし通り原始社會にてハ婦女は生命の權利さへなかりしゆへ、其身躰を處分するは勿論家長若しくハ夫たる者の自由にて、之を鞭韃するも咎めず、之を虐使するも問ハず、云ハゞ己の躰で己の躰にあらざるに齊しき有樣でした。

然るに社會の進むに隨ひ、法律ハ家長又ハ夫の權力を制限するに至ります、例へバ印度の「メニュー」の法典と申すハ今を距る事大凡そ二千七百年、即ち西暦紀元前八百年の頃に制定されたる世界最舊の法典でありますが、此法典の第八卷第二百九十九條に

妻子弟奴婢若クハ徒弟ニ過失アル片ハ縄又ハ莽藤ノ小枝ヲ以テ懲戒スルヲ得

とあります、之に依りて見れバ、法律ハ妻子を笞つを公認したるに違ひハありません、然しよく〳〵其文意を考へて見れバ、是れが家長及夫の無限の權力に制限を置くの端緒であると思ひます、其理由ハ此時に至る迄ハいつ何時でも氣に障る事あれば勝手に打擲して癇癪の虫を慰めた者ですが、此法令により法律にては過失ある時のみ之を懲戒するを許し、且つ其鞭韃の器械をも制限したものです、印度ですから隨分椰子の實でなぐり付け、椰榔箒で擲き伏せるなどと云ふ野蠻の所行もありましたろうが、此法令にて縄か又ハ莽藤の小さき枝に限ると定めました、又第三百條にハ

妻子等ヲ笞ツハ身躰ノ背部ニ限リ其他ノ貴重ノ部分ニ及ブ可ラズ若前ノ成規ニ違フテ笞ツ者ハ盜賊ニ等キ罰金ヲ科ス

とあり、鞭韃を加ふる部分にも制限を置きました、二千七百年前の昔し、既に斯の如き法令あるを以て觀れバ、印度の開化ハ其時代既に著しき進歩を爲居るを想像するに足ります。

羅馬の法律にてハ婦女は自ら家長と爲る能はざるを以て、婦女は常に家族たる位置を占めて居りました、故に前にも申せし如く、家長ハ之を殺し、之を賣り、之を鞭つも、敢て法律の問ふ所でありませあんだ、然るに共和時代に至り「センソル」と云へる撿察司を置きて妻子を虐使するが如き暴行を制せしめました、其後「アレキサンダル、シベラス」帝敕令を發し、家長が其妻子を鞭つハ懲戒の目的に止まるべしと定めました、羅馬の婦人ハ此時に至り始めて身躰上の保護を受るに至れり、其後羅馬法を繼受せる歐洲諸國に於てハ、家族制度の壞るゝ

に隨ひ、法律上未婚婦既婚婦の區別を生じ、未婚の婦女丈けは私法上獨立の權利を得、身體生命の權利は敢て男子と異る事なきに至りました、然し既婚婦即ち人の妻たる者の權利は現今に至る迄餘程未婚婦の權利とは違ふ所がありますが、是は跡に御話し致します。

扨東洋の法律も同じ事で、古代は妻子の身體は其夫たる者、其父たる者の自由に處分するを得ました、然るに最早刑律を定むる位の世の中に進んで參ると、妻子たる者幾分か法律の保護を受るに至ります、例へば唐律の鬪訟律にも「妻を毆傷する者は凡人に二等を減ず」云々とあり又「妻夫を毆てば徒一年毆傷重き者は凡鬪に三等を加ふ」とあり、又明律にも「凡そ妻夫を毆つ者は杖一百、折傷以上に至れば各鬪傷に三等を加ふ、篤疾に至る者は絞す」云々とあり又我新律綱領にも鬪毆律中毆傷妻妾の條に「凡夫妻を毆つは折傷にあらざれば論ずる勿れ、折傷以上は凡人に二等を減ず」云々とあり又毆夫の條に「凡妻夫を毆つ者は杖一百、折傷以上は凡鬪傷に三等を加ふ」云々とあります、是等の法律によりて觀れば、夫の身體と妻の身體とに尊卑の別あり、隨つて毆傷の罪にも輕重はあります、然れ共兎に角法律が幾分か婦女の身體を保護したるには相違ありません、我現行刑法は敢て明文を以て夫婦の間の尊卑を定めず、之を毆傷するの罪も全く其時の情狀に任せ、豫じめ男女によりて輕重を定めざるは舊法に比して著しき進歩ありと思はれます。

亞米利加の紐育に於て一千八百六十年に、婦女の身體に關し、最も著しき法令を發しました、其法令に「凡そ既婚婦たる者は自己の身體若くは榮譽に關し何人に對するも自己の名前を以て損害賠償の訴を起すを得べし」云々とあり、此法令により今を距る五年以前に妻が夫を訴へたりと云ふ奇訟の判決例があります、其裁判を「シュルッ」對「シュルッ」の訴件と稱し、「シュルッ」氏は其細君と例の「犬も喰はぬ」と申す喧嘩にても致せしにや、情け無くも散々に其細君を打擲したものと見へます、然るに細君も左る者、直ちに夫を相手取り損害賠償の訴を起しました、ナント呆れた話しではありませんか立法者は多分夫に對する事は其法文の中に入れざる考でありしならんと云ふ事なれ共現に法律の明文に何人に對するも損害賠償の訴を許すとありますから裁判官も如何とも爲る能はず、シュルッ氏はおめ〳〵と其妻に賠償金を拂ふ事と成ました、民事に於て妻より夫に對し損害賠償の訴を許せしは實に此訴

訟が始めなりとの事です、然し是は餘り極點に走り過たるにや、其後控訴裁判所にては夫人の敗訴となりたるとの事です。其他近頃に至りては特に婦人の身躰を保護するの法律は追々に其數を増します、例へば懐胎の婦女に對する暴行を罰し、又承諾年齢以下の少女を保護する法律の如きもの尠からずと雖も、斯く多人數の前にて委しく之れを説明するは聊か憚る所もあれば暫く之を略します。

右に述べたる事を撮んで申せば、未開社會の法律にては婦女身躰上の保護なく、生殺賣買讓與殴傷の權一に男子の家長にあり、社會漸く進むに隨ひ、法律婦女の身躰を保護するに至る、然れ共半開社會に於ては、妻子の身躰を殴傷するを罰するに至れ共も他人を殴傷するよりは其罪却て輕く男子に比すれば法律の保護薄し文明の法律に於ては、婦女は男子に比すれば自衛の資格に乏しきを以て、身躰上の保護却て男子より厚しと申す趣意であります（未完）

## ●叢話

### ○秋夜の怪談（第二）

櫻田ゆかり

敎へを請はんと迫りたるに思はぬ愚痴を陳べ立られ、葉末の露に濕ひたる衣を拂て立たまくする折しもあれ、顯れ出でたる法師武者の恐しさに、ゆかりは再び膽を消し、逃んとする足震へ行かんと思へど腰立たゝず如何はせんと惶つるうちくだんの法師はつか〳〵と我が傍へ歩み來り心の怒りに堪へずやありけん榮螺の如き拳を振上げ打たるゝ覺もなさけなやゆかりの頭を四つ五つ續け打ちにぞ叩いたり太公望は見るよりも一足早く走りより、御僧は抑も如何なる方かは知らねども出家の身にてありながらこは餘りに大人氣なし止まり賜へとなだむれば、彼の法師は眼を見張り、我れこそは義經一代記に幼子も知り、背に負ひし七つ道具に大工の小僧も覺へ居る、女嫌ひと名の高き西塔の武藏坊辨慶なり、聞けば此頃下界にてゆかりと申す馬鹿者が、女權伸張すべしとか、男女は同權なるべしとか勝手次第の熱を吹き愚かな女を煽り立ていらざる世話を燒くとの事草葉の蔭にて腹立しく、いつかな懲して呉れん者をと思ひしが、今夜は丁度太公望殿が彼の馬鹿者を訪はれしと聞きさては日頃の擧動を翁も憎くしと思われてこらさん爲めに趣かれしか後れたるこそ殘念なり、我身も行いてえせ者の頭ありとも敲て呉れんと喜こび勇さんで參りたるに暗に相違の足下が言葉それと定かに云はれねども、矢張りゆ

かりの肩を持女びいきの口ぶりにて長〻しき愚痴をこぼさるゝに此の辨慶も力抜けし頼のみにあらぬ人かなと思へばあの馬鹿者が、なほ〳〵憎し耄碌翁のき賜へ今一度打たざれば胸にわる疳癪がなか〳〵治り兼ぬるにこそ、なまじひに止だてして必ず怪我なし賜ひぞ翁の如き甘口な人のみ故に馬鹿者がます〳〵我慢につのるなりと大聲に叫ぐを、太公望はなほも推止め、いかに怒りに堪へずとて少しは物を考へ賜へ虫の聲さへ絶たりし靜けき夜半に御僧の如き大聲を上げ賜はゞ四隣の人の眠りや覺めん腕立せずとも理非はわからん靜まり賜へ辨慶と、さとすにやう〳〵氣が附きしか、呂尙どのゝとりなしなくば打殺しても呉れん者をと不興氣なる面色して傍らの石へ腰打かけ少しく聲音を抵ふなし大公望に打對ひ足下が先刻の愚痴は此の辨慶にわかり難し、其故如何となれば妻たる者がなれこれと夫の働きに口出すべき筈はなし、翁が渭水に釣せしは文王を釣らんが爲めにこそ直なる鉤に餌もなく朝より夕にいたる迄たとひ如何ほど苦心すとも魚のかゝらん樣はなし、それをよく〳〵察しもせず又考へもなさずして離別を請ふは妻の愚なり、龍車に乘て軍師たる時車にとり付き罪を謝する如き女の浮薄をよくも顯したり、覆水盆にかへらずと叱り付けたはさすが周の天下を起さん太公望の言葉なり、一つの事業を成さんとする時妻子の如き手足まとひの物ありてはとても成功は覺束なし、此の辨慶は一生涯妻と云ふ者は持たる事なき偏人なればその御蔭には戰場にて目覺しき働きを度々爲し、いざ出陣と云ふ時も鎧の袖に取付たり、小供が足にからみ付く樣な、ひつこひ面倒もなく、坊頭故にや跡に心が殘て後髮を引かるゝと云思ひもなく東に行ても西に移つても死んでも生ても止むる人も追ふ者も悲しむ輩もなにもなければ勝手な仕事が出來るゝ、女房の膨顔ほど世の中に快よからぬものはなしとよく人々が物語るもげに道理りのある事よ、妻をば持て苦しまんよりけつく持たぬに如く事なし、然るを翁は愚にかへり外國人が羨しひの、やれ三千年の非を知つたの、愛がないとか、情なしだとか、くだらぬ事を說かるゝは辨慶一應心得がたしさわ覺さずやと飽迄に頑固の理屈を陳立つれば太公望は迷惑氣なる素風にて唯だ頭を以てうなづくのみ、此時迄も平伏たるゆかりは、打たれし頭痛も輕くなり腰もどうやら立ちそう故少しく元氣附きやがて辨慶に打向ひ、さりとて頑固な御僧かな如何に女嫌ひとて理も非も分けぬ言方よ、今しばらくこの馬鹿者が申す事を怒りを忍んで聞

き賜へ、そも明治聖代に教育を受けたる婦人とは、と云ひ出さんとするや否や、辨慶亦も大聲にて、それが第一氣に入らぬ天下の書物を丸呑にし、宇宙の眞理を味ひ盡し、百般の技藝一として熟達せざるなく、男子を壓倒し、女權の擴張を專任し、我れこそは明治の婦人として一歩も人に讓らざる者なりと口に云はねど樣子に顯はし、筋道たゝぬ議論をば姦ましく喋べり立て、學者を氣どり智者を眞似し、五の力を十と見せ英語も出來ぬに洋服を着たがり、讀めもせぬ本を持ちあるき蹈舞會に加はれば亦た男女交際會に入り、抵く鼻を高くし人なみの口を無暗に尖らしたがり、何ぞと曰へば人を尻目に見やり、肩を怒らせ、胸を突出し、大手を廣げ、大股に歩み譯もなき事を大層に話すなど頭の先きから足の先き迄一として氣に入らぬ(此の時ゆかり口の内にてナニチ昔し物が)。

○塩原入浴の記　(續)　鈴木弘恭

十日雨いみじうふるつれ〳〵なれバふみどもまきかへしつゝみるほどに空もはれにたり雨のなごり見てこんとてたゞひとり箒川にそひて水かみにとゆけバ川水のことさらにおと高く流れ巖にふれ雪の如くうちゝるさま夏のほかなる心ちす中塩原村の道の口にいたれバ川をへだてゝ右のかたに松の木どもいたくしげれる山見ゆ塩原八郎家忠が古城なりとぞ路の左のをかに岩穴あり源三窟といふ土人らが三位入道の宇治よりのがれて此所にかくれ居給へりしなりなどいふハいとはらふべきひがことなりこは入道の孫の有綱がこの村にて身まかりぬることによりて傳へあやまれるなるべし有綱ハ伊豆守源仲綱の子にて伊豆冠者といへり源義經奥州に下れるとき跡をしたひて來りつれど道すでにふたがりてゆくことあたハざれバせんかたなくてつひに此地にとゞまりて字小田市といふ所にすみて身まかりにけるをのちに天文七年といふに神に祭りて有綱神社となんいへるとて今もその社ありさてこの窟ハ上代の穴居のあとゝも見えず口のほどハ一丈ばかりなれど横に入りてあゆみゆけば二十間もありとぞおのれハさしのぞきたるのみにてやみぬまたこれにとなりて八幡の社あるハ建久のむかし有綱の勸請する所なりとて上中下の三村を鎭守たまへり石のきざはしを高くのぼれバ四丈ばかりもめぐらすべき大きなる杉二本ならびたてり根ハさながら巖の如くしづ枝ハおほかた枯れたれどなかばより上のかたハなをみわたりていとかうがうしそのさま千とせあまりハへにけんと思ふに二本ながらたけの高さ幹の大いさともにおなじやうなるハいとめでたし

「いつの世のたねにかあらん神がきのしるしに立る相生の杉み社ハこの木かげにありぬかつきて下りぬ是より二町ばかりゆきて板橋ありかなたに中鹽原村の民家たかくひきくところどころに見ゆれど此村にも上志ほバらにもいでゆハなしけしきのよきはおなじやうなれバ立もどりぬ

十一日天氣いとよし塩湯にものせんとて鹽涌橋をわたるこのはしハ志ほかまにあり箒川にかけわたして長二十間あまりあるあり左にをれてまたひとつの川あり鹿俣川といふ北の岸に沿てのぼりゆくこと十町ばかりにて人家六つ七つありこれを鹽湯といふいでゆハ川にそへればけはしきつゞらをりを下るあれどゆあみする人の多きことハよそのたぐひにあらずおのれもまづ入浴してこゝろみるにげに志ほけありさて山水のさまハうつし畫にもまさりたれども道のたよりハいとあしかるべし明賀やといふにいこひてものがたりなどするに此のあるじも君島某といふものにてその遠祖ハ君島信濃守とて宇都宮の家族にて此の山の明賀といふ所にきづきて年久しく住ひけるが應仁の亂の後宇都宮家もやう／＼おとろへければ信濃守の子うまこらこゝにゆあみの宿をまうけてかたハらになりはひとしたりしをやう／＼に家もわかれてかくひろごれるなりかの山のいぬゐの方に古城のあとあるハいにしへの跡なりあどおよびを指してうべ／＼しくしめされたりまことや此の里にいでゆのやどをなりはひとするものハことゞく君島氏なれバあるじの物語もひがことにハあらざるべしとおもひぬ」けふハこれより新湯へものせんと思ひつれど道のほど遠しときけバゆかずしてかへりぬ

十二日けふもていけよし東のまど推おしあけて朝日のさしのぼるをみるにまづいたく高きむかひのみねのいただきなる松にのみひかりさしてふもとハまだよを殘してをぐらきにしろき雲のをのなかばにたなびきたるハ何がしの畫にもよく似たるかなとうちまもるにすこしひきゝこなたのみねより煙の如くに立のぼるハなほ雲なりやう／＼日のたかくなる頃雲ハたちまちにみえずなりてはるかなるふもとにのみ霧のたちこめたるハおなじ山とも見えぬにまことの煙なるべし三つ四つばかりほそうちなびくは木こりどもの山こやとかいふものにすまふが朝けかしぐなりとぞ

「大空の物かとぞみるうちなびく雲の上なる峰のたか松」

都の人にみせましかばいかにあらんけふハいと暑くありぬべき空のけはひなれバ机に向てものかいつけなどして暮しつ」

○室内の飾り方

ピアノ又はヲルガンなどを置くに其後面を壁に附け彈手は壁に面して之を奏ずることあり此の据置方は宜しからず斯ては樂器のひゞき壁に移り行くべくまた歌ふ人の聲も壁につき當りて反響し幾分か滑らかなる音を失ふべし

ドローイングルーム即はち客を迎ふる室もしくは一家内の人々が集つて樂しみ合ふ室は西洋人の宅に必らず有之ものなり此室は一家の内にて尤も注意して飾り付けを爲し成べく客をも樂しませ亦た家族も一同に喜び合ふことを主旨とす故に此處にかくる額圖などに戰爭の圖破船難船の圖若くは瘠せたる犬死に瀕する子供の圖などを掲ぐるものあるは眞の敎育を受たる人にあらず

西洋家屋の掃除は少こし樣子の變はりたるものなるが先づ書物、ピアノ、寢床の如きは初めに能く掃らひ置き之に新聞紙もしくは大なるキレを被ひ窓かけも亦た能く掃らひて一方にたゝみ之を新聞紙にて包みピンにて止め置き偖て入口に尤も遠き所よりホウキを眞直にして(或はブラッシを用ゆ)掃き出すべし

食臺に懸くる机かけの布は眞に純白にして淸潔なるべしまた惡しきシワなどありては宜しからず之をたゝむには竪なりに二つに折り之を復た二つに折り更らに亦た折り凡そ巾六七寸ほど迄に折りて大切に仕舞ひ置くべし倘ほ之をたゝむときは常も同樣の風に從ふべし然らば臺に掛けし後の見榮よろしきもの也

*"Age cannot wither her, nor custom stale*
*Her infinite variety."*

*Shakespeare.*

## ●佳傳

### ○女丈夫の傳（其三）

ピッチャー夫人夫に代て大砲を預る事

米國戰爭の此ろモルリーピッチャーと云へる大砲方あり激戰の最中重傷を負ふて殆んど打倒れたれば大將も止を得ず砲を引き退けよと命じたり然るに此時傍らに在りたるピッチャーの夫人進み出でゝ「此處に妾參り居候」生命のあらん限り夫に代りて大砲を受持申すべきに付退軍御無用に候はんとて衣をからげて身搆へし丸を盛りて差つかへなく發砲したりける將軍ワシントンは之を見て大に賞賛し軍を引上げざる前に即刻之を佐官に登用したり然れば夫人は一生軍服を着しエポレットを飾り能く軍事の用に服したりと云ふ

### ボボリナ夫人軍艦を指令せし事

グリーキの女丈夫ボボリナと云へるは希臘の自由を保護せん爲め一つには其夫の殺ろされたる讎を報ひん爲めチットーマンポルトに對して軍艦三艘を用意し船將二人をして其二つを指揮し親ら殘る一艦に打乘つて戰畧を運らし千八百二十年有名の勝利を得て土兒其人の膽を寒からしめたり夫人常に其の臣下に云つて曰く吾等は敵に打ち勝つにあらずんば復た世に存すべからず若し世界中に於て希臘人にして一人も人の奴隷と爲るものなくんば幸之に過たるものなからんと

### チンチ孃其母と共に遠征旅行の事

和蘭にチンチ夫人と云へるあり其一女を亦たチンチ孃と云ふ孃は千八百三十五年に生れたるが十四才の比ろより母と共に所々を遍歷し外國の語を自由に辨じて荒比亞の國語をすらも差支へなく談話し得るに至れり、此母子は千八百五十四年にコーペンハーゲン、ノーウェー、ウェーデン等に遊び其翌年は中央日耳蔓よりミラン、ベニス、の方に渡り其後埃及に進んでナイルの瀧の邊りまで登り之れよりアレキサンドリア、ジヤッフハに渡り又ゼヨルサレムに暫時留りてリバンよりバイロウスに過ぎ其後再びカイロに歸りてヌビアに下り之よりコンスタンチノープル、アゼン、ドレスデン等を經て本國に歸り千八百六十一年復た新なる仲間を組んでアフリカの中部に進ゝみたり、抑も斯く所々を巡りて遠征に身を委ぬるの目的何如んと云ふに一つには此世界にて人を賣りて奴隷となすの惡風を全く絶んが爲に出來べき丈の力を盡さんとするに在り二つにはバールエルガザルより西の方に未だ知られざる土地を發見して世界の地理誌を富まさんとの目的に在り左れば兵卒六十五人を合わせて總躰二百人の同行を編み驢馬、馬、駱駝に荷物を積み十ケ月間の食料を用意し交易に用ゆべき物品を調へ出發したり其の旅中に出で合ひたる艱難もとより名狀すべからずと雖も此の婦人母子全躰を指揮して能く之を忍耐したりと云ふ、中にもチンチ孃は丈高くして智慧深く勇氣拔群なれば荒比亞の酋長等いたく之に服して孃をスゥーダンの女皇と爲さんとしたり、然るにボンゴにてチンチ夫人死去し其侍女及び孃のかひ添ひも亦た相續きて死に行きたれば孃は暫時遠征の進みを止めてカルツーム及びカイロの方に歸り途にて救ひたる數多の男女を伴なひ來りたり、斯て埃及に惡病さかむとなりし比は孃非常の力を盡して之が撲滅をつとめ千八百六十四年アレジールに大地震ありたる折は市中にて尤も害の甚

しき場所に距付けて人を助けたると甚だ多しと云ふ

古の女王に名君ありたる事

古の女皇にして有名なるもの多し先づ彼のクレヲパツラは其貞節に於て何如はしき處あれども其意たゞ本國を盛んにせんとして羅馬代々の王に身を托したりと云ふキング氏の說當を得ば蓋し亦た是れ常盤節を破るの類ひと云ふべき歟何れにもせよ十七才にして王位に登り口に七ケ國の國語を使ひ老人少年を相手にして談話に差しつかへなかりしと云ふ固より非常の人物たると明らかなり

又たセミラミス女王は曾て其功德を自から頌して曰く天は余に女の躰を與へたまへど余が功德は尤も大膽ある男子の行ふ所と異ることなし余が領する＝ナスの帝國は東しヒナコン河（今のインダス河）に接し南み乳香沒藥の產地につゞき北はサケー及びサーヂアに合ふ蓋し余が領地は廣大にして其の四方を全く承知するものあらざるべし余は余が思ふ通りに河を流し必要の地に河水を行れり荒地は余れ水を灌いで之を豐かにしまた敵の入込みがたき强壁を築き破りがたき岩を通じて鐵路を開き野獸橫行するの地に余が車を通じ多忙極まりなきの間だに快樂愛和の餘暇を得たりと

セミラミス女皇の后ち凡そ五代を經て＝トクリス女王と云へるありきメデスの權威日に隆んに成り行きて隣國を蠶食するを見慷慨に堪へず其の本國バビロンを防がんが爲めに種々の大土工を起したり、先づイウフレート河都の眞中を割りて流るゝをバ數多の堀割を作りて河水を後に引もどし河を往來するものに都の景情を悟らしめず次に都の上ゝ手に大なる水溜を作り深く地を堀り周圍を廣くし凡そ四十二英里半のメグリとなし之より堀取つたる土は河の兩方の堤に用ひたり次に大石を切り出させて河水をせき止め其水を悉く水溜の內に入れ置きて河底を乾かし切り石を以て兩方に築き煉瓦を以て家根を作り其上を道としまた橋を架し扨て后ちに復ひ水を通じて下に流れを行りたり、斯る大土工を爲盡して後ち自から壯嚴の墓を作り之を開くものには大ある富を與へんと約する旨の石碑を建てゝ死するのち之に葬られたり、後に至てダーリアス一世之を發ばきたるに骸骨と下の一句の外何物をも發見せざりき云く汝ぢ貪慾飽かざるの人にあらずんば何んぞ我が墓を破らんと

*"They (Teutonic tribes) think there is in women something holy and prophetical; they do not despise their Counsels, and they listen to their predictions."*

*Tacitus.*

●小說

○薔薇の香

第十二回　去りたし　月の舍　しのぶ

お孃さま、モシ、青山さんが居らつしやいました、モシ

光さん青山君が來ましたよ

パット眼を開き瞬の內より葱の如き手を差出し先づ頭に載せたる氷嚢を靜かに取除いて此方に振向いたり、平生懸詰にしたる眼鏡を脫づしたれば顏の相少こし變れつて見ゆるに面色一層の蒼味を增して圓らなる眼ことに大きく覺へ凄然として甚れだ物すごく見へたり、僅かの笑ひを瘦せたる顏に深く刻み付けて

御免下さいまし

そうなすつてお出なさい、大層お惡いそうで、氣分はどうですか

ツイ常もの樣なことと思ひましたに今度は存外重いそうでしていろ〳〵御心配をかけます

困りますチー、然し先刻ダクター(醫伯)にも聞きましたが切度直ほるです、心配なすつては成りませんよ

イヱ何も心配と云つて別段惜しからん命ですから‥‥どうも思ひはいたしません‥‥が病などは實に世の中に無くつて宜しいものです

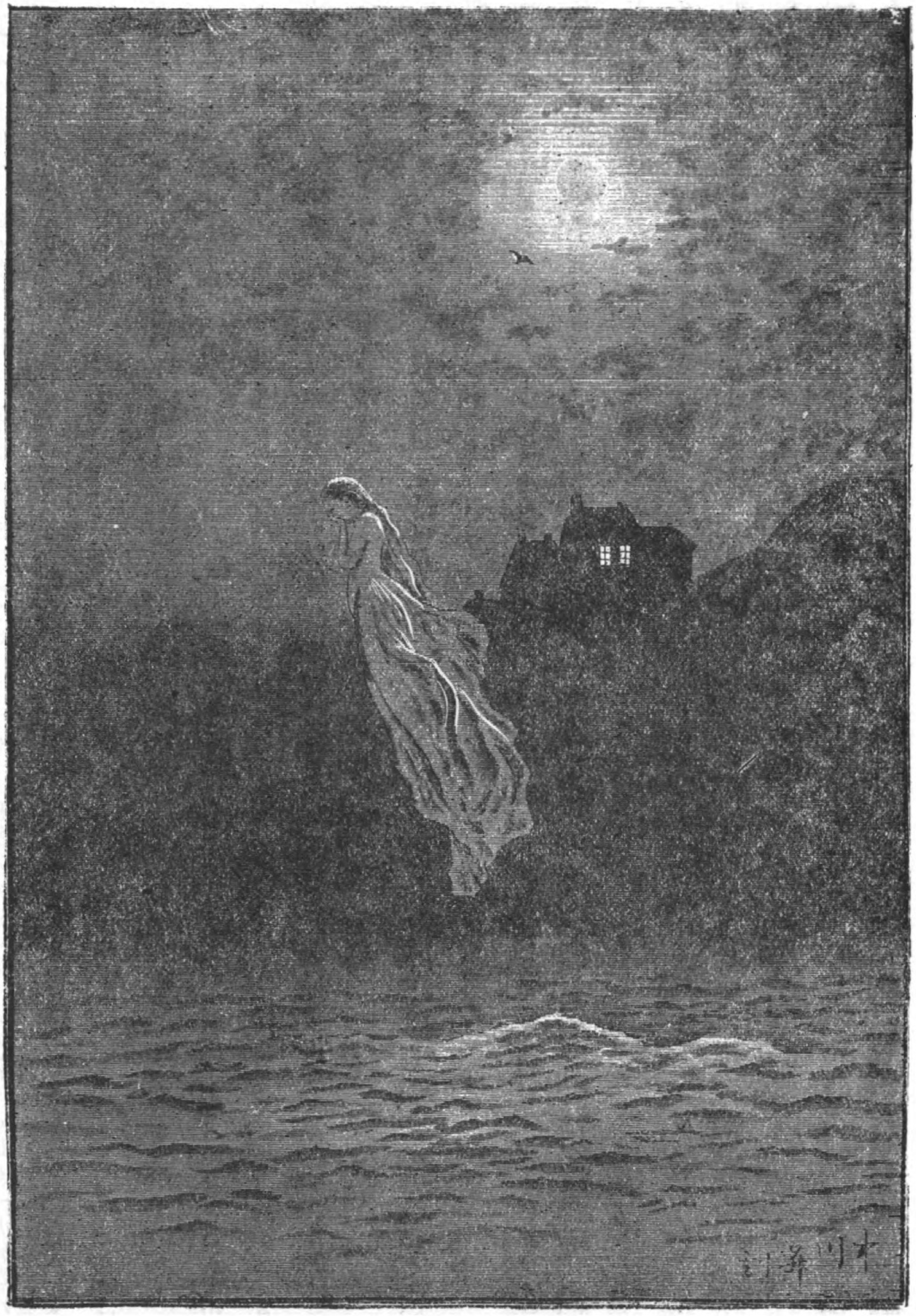
そう思ひなさるからイカンデス病と云ふものは實に一つの賜物で神の惠みですよ、若しあなた病が無かつたらば人間に何れ程多くの死人が出來るか知れやしないです病は丁度神の使ひであつて人間に其躰の傷んで居ることを報告するものです、此の使があり升から一身に不都合の處の在るを承知して藥を飮んで養生するのです、若し病がありませんでしたら夫こそ吾等は死すると云ふ其時までも何も知らいでウカ〳〵して居ませう而して突然死にまするよりは此の使の知らせを受る方がイクラ幸だか知れやしません、ダカラあなた矢張之を感謝して一日も早くお直しなさるのが即れち神の命令に從ふと云ふ者でせう

左樣で御座いますかチー

一躰あなた何う云ふ風ですか、ツノウ氣が鬱して眞に果敢ないと云ふように思なさることが多いのですか

別段こゝが惡るいと云ふ所は存じませんで自分にはそう變はつたとも思ひませんが大層やせましたそうで生氣も餘程衰ろへましたそうでたゞ自分には何事も面白う御座い

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY



ませんから何んとなく氣が沈みしましてツイ床を出ようと云ふ心も起りませんので

ソレが悪るい所なのです

傍らに默然として居つたる俊太此時やうやく透間を見て話しの鋒先を突き込み

どうも青山君その何か斯う一つの勵ましがあつてチト一身の器關に號令を懸けて行くと躰中の道具が悉く早歩で自づから進むように成るです左うすれば最う直ちに療るですが光ざんの心に其の勵ましがないから斯のように全快なさらないのです青山君そうじやないか

ソウ、どうか其の勵ましが在れば好いですが然し白河さんには其の奬勵物は數多ある筈です、兼て女子總躰の爲めに餘程重い責任を負つてお出なすつたのですから今まあなたが此儘で居つて好いと云ふ者のあるべき筈でないです、實に同胞姉妹の爲めに一日も早く全快して盡力なさらんければならんです

ナニあなた私に何が出來るものですか世には既に其人が多くありますから私の一身は早く土に還つて自然の經濟を償ひました方が…償ひました方が(ビリリと全身を震はせて)自然のエコノミー(頓着なく頭を一方に傾け)女だつて出來ますよ出來ますよイヽエ私は女ではありません

アナタは何んです何方ですか、知りませんよ來てはイケませんよコヽは私の領分ですネ、そうですかネ、

餘まりの事にあきれて俊太は途方もなき顏付を爲し青山は眉に皺を寄せて首を下げ連りに注意して居る、其前へスツト手を出して何か捜がすようの風を爲る病人の手を青山はシツカりと握りて固くしめたり

チヽ、エンジエル(天の使)どうか私を連れて往つて下さい手を離なさないでヨ離なさないで

山内君其處の天使の額は餘程白河さんの腦中に染込んで居ると見へるよ、君どうかダクタア(醫伯)を迎ひに遣つて呉れ玉へ

ヨシ來た一寸つと頼むぞ(楷子を降りる音ドン〳〵〳〵)

---

## ○批評

### 浮雲の褒貶(其三)

石橋忍月

既に前回に於て論じ來りし如く浮雲は近時拔群の上出來なる書なり予をして試驗委員とならしめ假りに百點を以て成績の

滿點を表するとなさば浮雲にはさしづめ九十點内外の成績を與ふ可し故に予が是より貶毀する所は僅に殘る十點の範圍内に在り予如何程力を盡しておらを探し巧みに小言を弄するも其價値は十點の外を出づる能はざるなり請ふ讀者其貶毀の文句長きを見て浮雲の眞價を忘るゝ勿れ

浮雲中第一の欠點は女を男となし男を女となしたると即ち女子の有する性質意想は女子に無くして男子に在り男子の有する性質意想は男子に無くして女子に在ると是れなり鬪十郎に揚卷の役目を與へ助高屋をして助六を粉せしめば人誰れか其失當を笑はざらん予は浮雲の著者が此失當なる役目を篇中の役者に配せしを以て實に殘念に存ずるなり凡て小心緻密不決斷柔優敏捷陰蔽等の性質は多くは女子に有りて淡泊、潔淸、剛粗、短慮等の性質は男子に多し今浮雲を見るに男子に多き性質は盡く女子の專有となり女子に多き性質も亦盡く男子の專有となる試みにお勢お政の人となりを見よお勢が言語の粗暴にして感覺の敏ならざる志操の剛淡なるお政が淡泊にして心にありだけをさらけ出し心で思ふ事と口で云ふ事は全く相伴ふて陰蔽するとなく且つ短慮にして決斷の早き誰れか此等の人物を以て女子となさんや予は僅かにおの字の附きたる名なるを以て假に婦人と思ふのみ又試みに文三、昇、の人となりを見よ文三の小心、緻密にして辛棒強き不決斷にして感情の敏捷なる昇が不淡泊不潔淸にして注意の緻密なる誰れか此等の人物を指して男子なりと言はんや予は僅かに其挿畫を見て男子なりと思ふのみ著者は外物の刺擊(習慣、教育、交際等)の如何に由つて女子の如き男子男子の如き女子の出來るは怪むに足らずと言はん夫れ然り予も世間に女の樣なる男男の樣なる女無しと言ふ者に非ず然れども種々の境遇を經過する間には必ず男女性質意想の區別は判然兩分するを得可し嗚呼著者の觀察力に富豐なる如何なる拍子にて斯る失策をなされしや若しお勢お政を以ッて男子となし文三 昇 を以女子となさば浮雲は即ち無類飛切り雪に白粉を施し鬼に金棒を與へたるの小說と謂つ可きに惜い哉 謀 茲に出です鬪十郎の揚卷助高屋の助六の奇演劇を見るに至らんとは著者若し「鬪十の助六は見厭きたり高助の揚卷も亦た舊套に屬す故に故意に此の奇演劇を演したりと」言はゝ予復た何をか言はん只默して小說の不幸を弔せんのみ　(未完)

*"Many men do not allow their principles to take root, but pull them up every now and then, and as children do flowers they have planted, to see if they are growing."*

*Longfellow.*

●本號には餘白なきが故に不得止寄書の一欄を除く

## ●新報

○英國女王秘書官より女學雜誌社へ來狀　曩に英國女王陛下即位五十年祝祭の節吾社は日本の同胞姉妹に代りて祝文一篇を奉呈したるが此頃ろ女王秘書官より巖本へ向け左の答書を送られたり

OSBORNE.

August 16 1887.

Sir Henry Ponsonby is commanded by the Queen to thank Mr. Yoshiharu Iwamoto for his kind Address of Congratulation which he has forwarded to HerMajesty.

ヘンリーポンソンビーは女王の命を蒙り茲に巖本善治君が陛下に呈贈したる祝文の信切なる文辭を謝す

○東京金蘭會　の第五回は去る二十三日北品川なる岡氏の別邸に於て開きたり當日は岡氏並其夫人が來賓の爲めに殊に意を用ひられたる者と見へ會場の前にはロンテニス及びクロッケットの遊戯場を設け前庭の程良き處に幔幕を張り喫煙飲食の場處となし此外談話室粧飾室までも備へ置かる午后一時三十分頃より續々淑女紳士の來會あり中には米人タムソン氏其の夫人令嬢クラーク氏其夫人令嬢も參會せらる第一には音樂取調所員諸氏達の奏樂次に荒木古童氏の尺八次に鳥居忱氏新作の唱歌次に宇川盛三郎氏の演說等にして其間男女打混じて種々の遊戯を試み歡談笑話到る處に起れり本日の來會者は百有餘名にして其前回に劣りし者は土地の遠隔と當日の曇天に原由せしならん宇川氏の演說は目下我國に於ける男女交際の方法を演せられたる者にして弊社は其草稿を乞ひ得たれば次號を以て掲載すべし尚鳥居氏新作の唱歌は左の如し

聲樂の都

錦あやおる、秋萩の、花もこのころ、さきぬらむ、」秋の野の邊の、萩が花見に、吾妹子、萩が花見に吾妹子、いざやゆかむ、」吾背よやめむ」妾はゆきてむ、今日の團居に、けふの團居は、深き契の、金蘭會、深き契の、交際は、談あふだに、面しろや、」けふは況してや、殊に妙なる、音樂、殊に巧の演說いざやきかむ、」吾背よ如何に、……あはれをもしろ、今日の團居秋の野の邊の、萩が花見に、まさるらん、

○谷子爵の婦人論　谷中將ハ我日本人の精神氣力を養成するハ今日社會改良に就ての一大急務なりとの意見を抱き居る由兼て聞及びたるが尙ほ聞く所に依れバ同中將ハ啻に男子の精神を養成するに止まらず女子と雖ども齊しく其精神氣力を養成すべしとの意見を抱きたるものゝ如し其言に曰く歐米諸國にありてハ上、王公の妃夫人より下、市井の婦女に至るまで女子と雖ども亦一個の人間なれバ其人たるの通理を以て勞働の範圍を脫し能はざるものと自認するものゝ如し試みに市場に到りて蔬菜を販賣するものを看よ是れ多くハ婦人の職務たり其他學校教師なり醫師なり溫柔懇篤を旨とするの事業、或ひハ裁縫師なり電信技手なり緻密精細を要とするの職務に至りてハ女子の之れに與かるもの極めて多し抑も社會の業務ハ千差万別其種類擧げて數ふべからざる程なれバ能く其分界を立て身體を役する粗大なる事業、若くハ非常の腦力を要する高尙なる計畫の如きハ之れを男子の任となし而して彼の溫柔懇篤を旨とする職務、緻密精細を要とする事件ハ之を婦人の任となし以て其宜しきを得たるものと云ふべきなり然るに我國現時の有樣を觀察するに婦人ハ僅かに箕帚の業に當り洒掃の務めに任じ以て我職分を盡し得たると思惟し一日の用事ハ庖厨の外一も顧みざるが如きハ最も慨嘆すべき事にして天授の生產力を浪費し去り社會の公益を計らざるものと云ふべし然れバ殖產上より論ずるも兎に角く婦人の精神氣力を養成することそ我日本今日の一大業務なるべしと云々

## ●海外女事

○マルガレットギルス死　同夫人は英國にて女の美術家の率先者となりし人にて彼地には有名の畵工なり最初其業を習らひ始められたる比は人々大に之に不同意を表し特に女にして畵工と爲らんとせバ先づ畵工と爲り了するか若しくは只だ女として存するの外なし到底かゝる職を爲し乍ら女德を保たんとハ覺束なしと迄で言ひはやしたるに同夫人は實際其の雙方を調和したる證跡を世に示されたり千八百三年八月に生れ今年八十四歲にして死す惜しむべきとなり

○看護婦　印度滯在の英軍總督の夫人レーデー、ロバートは兵卒に病よりも寧ろ看病の足らざるゆへに由りて死するもの甚だ多きを見て殊の外に之を憂へ今度英國より看病婦數多を招いて印度に來任せしめ一々軍隊に附屬せしむるとを主張したるに印度政府も大に之を賛成し近日其手筈に着手のもようありと云ふ

○英國の女職工　マベル、ロビンソン嬢が此頃のフホートナイトリーレビウ雜誌に投書したる女職工の所得と題する一篇を見るに英國にて當今女職工の數は凡そ四百五十四萬四千百七十人あり之を五類に分ち第一粉ひき店使ひ花つくり製本師の如き一かどの職業に就けるものを數ふるに千八百八十一年の調らべにて既に二百〇九萬七千八百〇九人あり第二、女の召使ひ二百〇八萬八千七百七十八人あり此餘を教師看病婦女役者書記(第三類)とし又た女の農夫(第四類)とし且つ女の商人貿易者(第五類)とす

○ビーチエルストウエ　彼のアンクルトムスケービンと云へる世を聳動したる小說の著者ハルリエットビーチエルストウエ夫人は追々に年も老け行き特に良人の死したるのちは勢氣大に衰ろへたるよしにて最早老先は短かゝるべしと云ふ此頃同夫人に面會したるもの、談話を倫敦の雜誌に掲げたり夫人云くイヽエもう私は書きませんモウ既に書て仕舞ました既に書て仕舞ましたよ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

## ●明治女學校生徒募集并びに新築落成廣告

本校漸次隆盛の域に進み從來の校舍非常の狹隘と相成り候に付き今般高燥の地をトし校舍を新築し略ぼ落成を告ぐ依て新入女生徒四十名の入學を許し且寄宿生八十名を募る精細の規則は附て承知あるべし○規則書御望みの御方は新橋日吉町八番地女學雜誌社へ宛て郵劵二錢送附あれば直ちに發送すべし

東京麴町區飯田町
三丁目三十二番地

明治女學校


## 明治女學校塾生心得書（第二）

### 第二節　一日時間割の事

第一條　塾生は毎朝六時に寢床より離るべし故に其十五分前即ち五時四十五分に鐘を鳴らすを聞かば速に起出で丶衣服を着け夜具を片付くべし○六時に取締見巡りて之れを取調ぶ○塾生は六時半迄に其室內を掃除し塵屑を椰下へ掃出すべし○校婢は六時半より椰下を掃除するに付此時より遲く室内を掃除すべからず○六時四十五分に取締再び見巡る○塾生は六時半より七時に至る間に自由に顏洗場所に至りて顏を洗ひ髮を梳るべし○七時に朝食の鐘を鳴らせば速かに食堂に集るべし○其後八時に至る迄は勝手に讀書して可なり一以上六時より八時に至る迄を自由時間とす自由時間には學校の門内に於て何の場所に在るとも差支なきものとす

第二條　八時に始業總會の鐘を鳴らせば講堂に集るべし○八時半より九時半迄で又九時半より十時半迄で又十時半より十一時半迄と三時間に仕切りて英學語學若くハ和學等の教授あるべし各その鐘の鳴るとき定めの教場に行て業を受け業終らば亦た講堂に歸り來るべし「以上八時より十一時半に至る迄を勉學時間とす勉學時間には教場に行て業を受ると止を得ざる用事あるとの外は講堂を出るを許さず其事終らば直ちに講堂に歸り自分の席に就て勉學するものとす○

（以下次號）


○稟告

弊店儀豫て洋服店開業の計畫仕曩に英佛國へ手代派出させ親しく彼地の服裝を見聞し現時流行の男女服其他附屬品等種々仕入仕候處追々着荷尙又倫敦巴里に於て熟練なる裁縫師と僱入既に來着仕候然るに未た洋服店建築中に候所御得意樣方々陸續御用被仰付折角の御厚意に悖り候ては甚だ遺憾に御座候間當分の内吳服店に於て業務相營み御注文に應じ度何卒多少に係はらず御用向被仰付度此段偏に奉冀上候也

駿河町
ゑちごや
三越得右衞門

○山口卯吉君結髪沿革附錄○和崎義路君校○巖本善治君跋
○渡邊鼎君著

# 束髪案内

美製小本八十頁細圖入
定價十五錢郵税四錢也

當今束髪流行の折柄其結び方不案内の婦人少からず此書は日本婦人に適する束髪二十餘種の結び方を丁寧に教へ一々細圖を附して親切に案内すれば何如なる僻遠の地に在りて束髪の風を知らざる人々も之に依て容易に自ら試るを得べし特に田口卯吉君の論文束髪會の規則其外をも添へたれば結髪改良に志ある人々は宜く一讀あるべし

○統計局次長世良太一君序○統計協會議員呉文聰君序
○朝野新聞記者　横山雅男君著
○定價一冊三十五錢郵便税十四錢

# 婚姻論

右は横山君が得意の統計學上より婚姻の定義其外早婚晩婚雜婚離婚などすべて婚姻に關係する事物は擧げて殘す所なく議論の確實なる擧例の精密なる世の父母たるもの亦た青年の男女の方々必讀の書なり

○鈴木弘恭大人著述○小中村清矩大人評

改正増補 **文法口授** 全一冊 ●一名和文獨案内

定價十八錢　郵税四錢

此書は文章家なる鈴木大人が多年諸學校の生徒に和作文を授業せられしを筆記したるものにて幾に出版したる所大に諸校の賞用を得たれば尚も亦今般大人に乞ひ改正増補して古人の文章數十篇を卷尾に付し或は雅文を俗文に譯し或は漢文を和文に譯したる作例をも擧げたり然れば啻和文のみならず漢文を學ぶ人の和文を漢文に譯するにも大に益あるべし且女學校などに於て和文を學ばんとする生徒諸君の爲めには此に過たる良書なかるべし

●右文法口授は學校教科用の書籍に適當也とて發兌后一週日を經ざるに既でに成立學舍女子部及び頌榮女學校並に明治女學校長榮女塾等の教科書となりたり

東京新橋日吉町八番地　女學雜誌社

| 發兌 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 九月。 | 三日 | 十日 | 十七日 | 廿四日 | |
| 十月。 | 一日 | 八日 | 十五日 | 廿二日 | 廿九日 |
| 十一月。 | 五日 | 十二日 | 十九日 | 廿六日 | |
| 十二月。 | 三日 | 十日 | 十七日 | 廿四日 | 三十一日 |

| 定價 | | |
|---|---|---|
| 一冊。五錢 | 郵税。一錢 | （但府内無郵税） |
| 十冊。四十八錢 | 郵税。十錢 | （同前） |
| 半年分　一圓十七錢 | 府外は　一圓四十三錢 | |
| 一年分　二圓卅四錢 | 府外は　二圓八十六錢 | |

廣告

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記錄を掲ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を載するに右雜誌十部の注文を要し以上半頁分毎に十部增の割合と定む

一行一回（廿七字詰）前金拾錢
同三回以上　一割引
同六回以上　二割引
十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絕す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町幾々堂○東京芝西久保櫻川町萬春堂○東京神田區雉子町開々社支店○同神田區佐柄木町東海堂○同日本橋區新乘町長明堂○同京橋區木挽町壹丁目萬字堂○同本郷區元富士町盛春堂○同本郷區春木町二丁目解明堂○東京本郷四丁目文壽堂○横濱伴吉町角田屋貞○京都四條通小橋へ入澤集光堂○同三條通東洞院西へ入クリスチアンポード○大坂備後町四丁目岡島支店○仙臺國分町十五番地伊勢安雜誌部○宮城縣仙臺大町木村文助○尾張國名古屋本町石版舍○出雲國松江新町盛進堂○廣島縣大手町一丁目早速社○長崎酒屋町虎與號○江州彦根西内大工町新々堂○相州小田原緣町石壽堂○上州高崎田町煥平堂○勢州松坂家里初枝

WOMAN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price 5 *sen*. By post *yen* 1.43 six months, *yen* 2.86 per annum, in advance.
Edited and published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku Zasshi Office, No. 8 Hiyoshicho, Shinbashi, Tôkyô, Japan.

發行所
東京京橋區日吉町八番地
本局　女學雜誌社
持主兼編輯　巖本善治
印刷　森田豐



Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY